



**令和2年度
山形市
地域包括支援センター
の概要**

山形市 長寿支援課

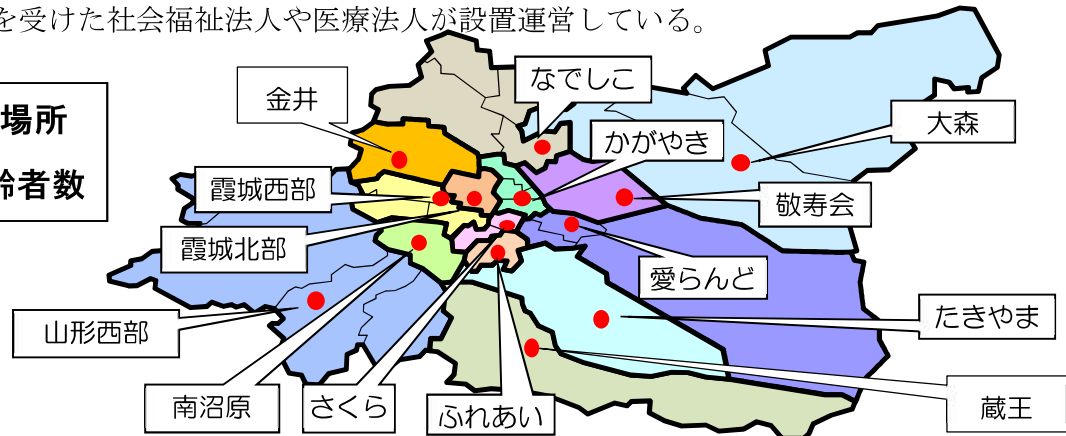
I 山形市地域包括支援センターの活動

1 山形市地域包括支援センターの概要

高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるように、包括的及び継続的な支援を行う地域包括ケアを実現するための中心的役割を担う機関として、山形市では、高齢者人口や地域特性等を考慮し、市内を14の圏域に分け、各圏域に「地域包括支援センター」を設置している。（令和3年4月より東沢・鈴川地区の圏域を分割し、東沢地区を済生会愛らんど地域包括支援センターが担当することとした。）

山形市では、包括的支援事業業務委託により実施しており、地域包括支援センターは山形市からの委託を受けた社会福祉法人や医療法人が設置運営している。

センター配置場所
及び圏域内高齢者数



済生会なでしこ地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市沖町79-1		
担当地区	出羽、大郷、明治、千歳		
圏域人口	20,837	高齢化率	34.4
高齢者人口	7,162		

地域包括支援センター大森			
社会福祉法人山形			
所在地	山形市大字大森2139-1		
担当地区	楯山、高瀬、山寺		
圏域人口	9,157	高齢化率	40.0
高齢者人口	3,662		

地域包括支援センター敬寿会			
社会福祉法人敬寿会			
所在地	山形市五十鈴3-6-17		
担当地区	鈴川		
圏域人口	18,546	高齢化率	29.6
高齢者人口	5,494		

たきやま地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市大字岩波5		
担当地区	滝山		
圏域人口	23,366	高齢化率	26.4
高齢者人口	6,169		

地域包括支援センターふれあい			
医療法人社団悠愛会			
所在地	山形市桜田西4-1-14		
担当地区	第六		
圏域人口	13,427	高齢化率	29.4
高齢者人口	3,942		

山形西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市すげさわの丘46		
担当地区	南山形、本沢、大曽根、西山形、村木沢		
圏域人口	17,850	高齢化率	31.9
高齢者人口	5,688		

篠田好生会さくら地域包括支援センター			
医療法人篠田好生会			
所在地	山形市桜町 2 - 6 8		
担当地区	第一、第二		
圏域人口	14,494	高齢化率	29.6
高齢者人口	4,284		

地域包括支援センターかがやき			
医療法人社団松柏会			
所在地	山形市旅籠町 1 - 7 - 2 3		
担当地区	第三、第四、第九		
圏域人口	21,124	高齢化率	28.5
高齢者人口	6,012		

山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町 2 - 2 - 2 2		
担当地区	第七		
圏域人口	15,427	高齢化率	29.1
高齢者人口	4,485		

山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町 2 - 2 - 2 2		
担当地区	第十、飯塚、樺沢		
圏域人口	15,447	高齢化率	31.1
高齢者人口	4,806		

蔵王地域包括支援センター			
社会福祉法人妙光福祉会			
所在地	山形市蔵王半郷石高 7 9 - 7		
担当地区	蔵王		
圏域人口	16,526	高齢化率	30.9
高齢者人口	5,110		

済生会愛らんど地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市小白川町 2 - 3 - 1		
担当地区	第五、第八、東沢		
圏域人口	22,409	高齢化率	28.3
高齢者人口	6,351		

南沼原地域包括支援センター			
社会福祉法人山形公和会			
所在地	山形市沼木 1 1 2 9 - 1		
担当地区	南沼原		
圏域人口	17,744	高齢化率	27.6
高齢者人口	4,904		

金井地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市陣場 9 0 3 番地		
担当地区	金井		
圏域人口	15,701	高齢化率	28.6
高齢者人口	4,495		

山形市基幹型地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町 2 - 2 - 2 2		
担当地区			
圏域人口		高齢化率	
高齢者人口			

山形市			
人口	242,010	高齢化率	30.0
高齢化人口	72,564		

※担当地区を持たない

R3.4.1 現在

② 地域包括支援センター 経営者会議

【開催目的】

地域包括支援センターの運営方針や予算・人員体制に関わる事項、制度改正に伴う説明、高齢者保健福祉計画の共有などについて協議する。

【参加者】

各地域包括支援センター受託法人代表者、基幹型地域包括支援センター、第2層生活支援コーディネーター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和2年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 10月22日	・地域包括支援センター相談実績等について ・各センターの職員配置及び業務体制等について ・指定介護予防支援事業の状況について ・地域包括支援センター評価事業について ・地域包括支援センター担当圏域の見直し等の方針及び新たな地域包括支援センターの運営法人の選定方針について ・山形市高齢者保健福祉計画（第8期介護保険事業計画等）について ・介護保険事業及び介護予防・日常生活支援総合事業の実施状況について ・山形市高齢者及び障がい者の雪かき支援の仕組みについて ・健康ポイント対象事業について
第2回 1月21日	・地域包括支援センターの評価事業の結果について ・山形市高齢者保健福祉計画（第8期介護保険事業計画等）（案）について ・地域包括支援センター運営方針（案）について ・令和3年度地域包括支援センター運営について ・令和3年度自立支援型地域ケア会議について ・令和2年度各事業状況について

③ 地域包括支援センター センター長会議

【開催目的】

制度の周知と方針の共有、地域包括支援センターの共通課題についての検討、山形市からの情報共有などを行う。

【参加者】

各地域包括支援センター長、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和2年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 4月11日 (書面開催)	・長寿支援課・介護保険課各係の業務分担等について ・長寿支援課等の地区担当及び地域包括支援センター等の職員について ・令和2年度一般介護予防事業について ・居宅介護支援事業所等研修会の開催について ・地域包括支援センター評価事業のスケジュールについて ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る各種通知について

第 2 回 7 月 3 0 日	・ 山形市高齢者保健福祉計画（第 7 期介護保険事業計画）進捗状況について ・ 令和元年度地域包括支援センター相談実績等について ・ 通所型サービス C（元気あっぷ教室）の実施状況について ・ 第 8 期介護保険事業計画の策定に向けた意見交換会について ・ 外部会議への委員選出について ・ 令和 2 年度の自立支援型地域ケア会議について ・ 新型コロナウイルス感染症対策に向けた取組について
第 3 回 3 月 2 3 日	・ 新型コロナウイルスワクチン接種に関する情報提供 ・ 山形市高齢者保健福祉計画（第 8 期介護保険事業計画）について ・ 山形市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護予防支援等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例について ・ 山形市地域包括支援センター運営方針（令和 3 年度～令和 5 年度）について ・ 山形市ケアマネジメントに関する基本方針（令和 3 年度～令和 5 年度）について ・ 山形市介護予防・日常生活支援総合事業実施要綱（案）について ・ 令和 2 年度自立支援型地域ケア会議の振り返りと令和 3 年度の運営について ・ 令和 2 年度第 2 回地域ケア調整会議の報告について ・ 各種実績について （地域包括支援センターの相談実績等・介護保険事業及び介護予防・日常生活総合事業の実績等） ・ 福祉まるごと会議での検討事項について ・ 山形市避難行動要支援者の避難行動支援制度全体計画における地域包括支援センターの役割について ・ 令和 3 年度包括的支援事業業務委託について ・ 各種手続等に係る押印見直し方針について ・ 介護認定申請について

4 地域包括支援センター ブロック情報交換会

【開催目的】

地域包括支援センター業務の円滑な遂行のために、3 ブロック（北東、中央、南西）に分け、日常的な情報共有、業務上の課題の共有などを行った。地域包括支援センターが主体となり、各ブロック年 6 回程度開催した。

5 機能別部会活動

【開催目的】

地域包括支援センターの 4 つの機能（総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント業務）を向上・推進するために開催した。地域包括支援センターの業務上の課題について、専門性に基づき分析し、解決に向けた取組み等を行った。

【令和 2 年度の開催】

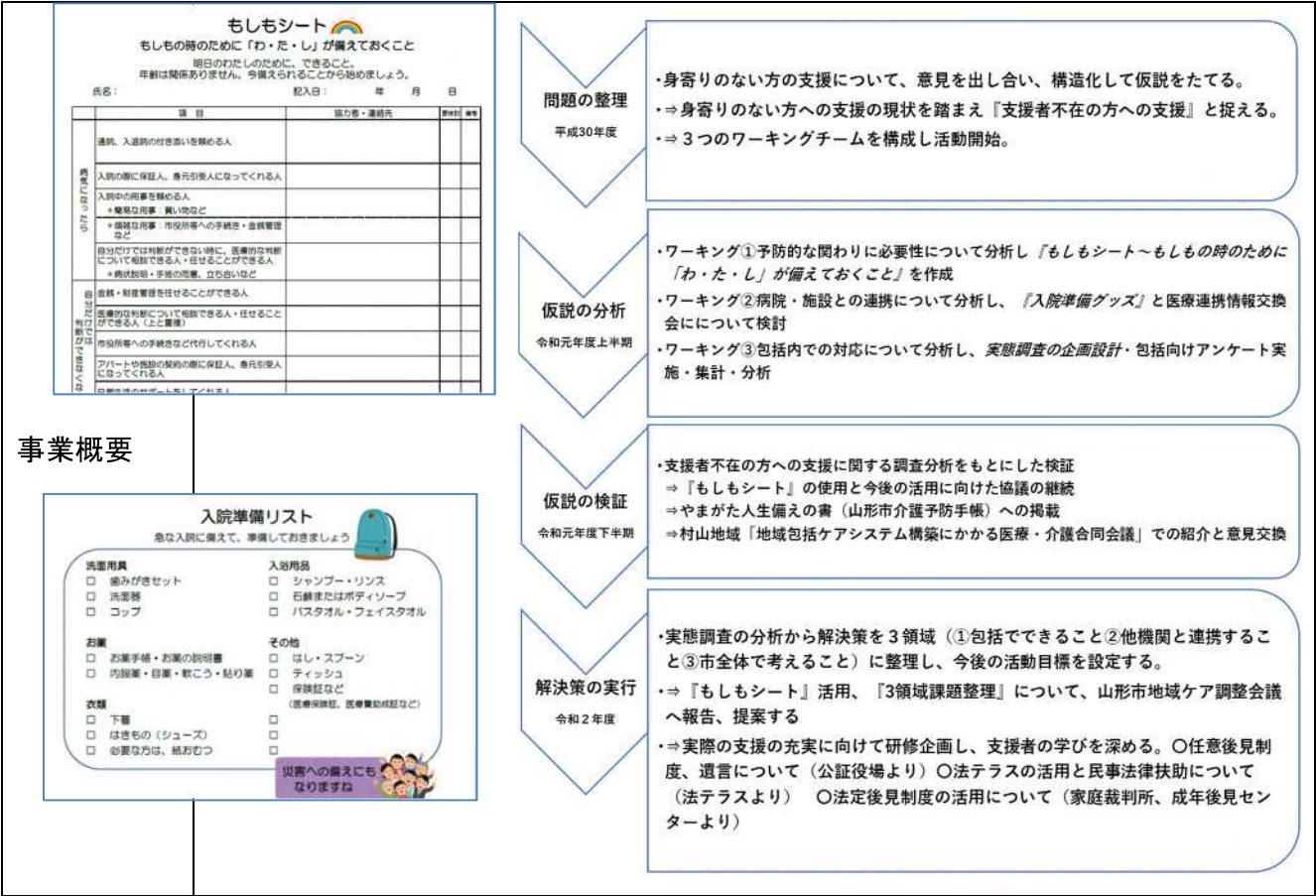
名称	主な取り組み
総合相談部会	地域包括支援センター職員の介護保険給付管理及びケアマネジメント業務における課題整理やスキルアップを目的として、介護保険サービスの利用に係る情報交換会を開催した。また、災害時の地域包括支援センターの対応フローを作成ため、課題整理や意見交換を行い、共有を行った。

権利擁護部会	支援者不在（身寄りのない方）への支援について、権利擁護に係る法制度等の理解を深めながら、実践に繋げるため、公証役場、法テラス、山形家庭裁判所等の担当者を講師に招き、研修会を行った。また、高齢者虐待の対応について、県社会福祉士会より講師を招き、対応理解を深めた。
包括的・継続的ケアマネジメント部会	地域包括支援センター職員のスキルアップや居宅介護支援専門員の支援指導に活用するための個別ケアマネ支援の報告や事例検討を行った。また、介護者支援をテーマにした研修会開催に向けての準備を行った。（令和２年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け開催できなかった。）
介護予防ケアマネジメント部会	新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う活動自粛の中での地域包括支援センターの取組やコロナ禍での介護予防事業の取組状況について、グループワークをとおり、意見交換等を行った。また、介護予防手帳の見直しについての意見交換等を行い、改良に努めた。

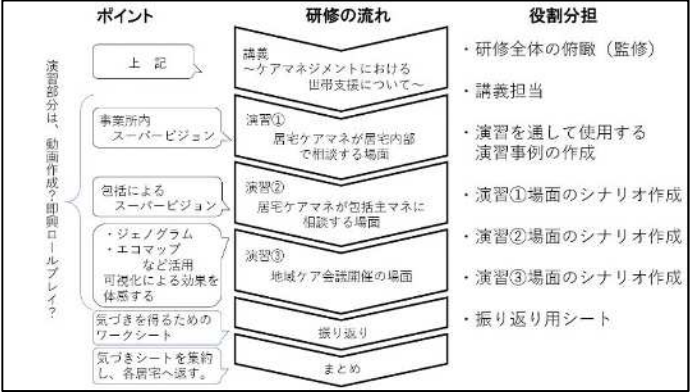
取組名	機能別部会：総合相談部会
活動の目的	○総合相談支援業務に資する活動 ・包括がワンストップ窓口であることの理解促進と機能向上。 ・チームアプローチによる対応や他機関協働による包括的支援の強化に向けたスーパービジョン向上 ・包括支援センター全体に係る課題共有と意見交換 ・全センターが共通して取り組むことなどの調整
活動概要	●コロナ禍での地域包括支援センターの相談業務フローチャートの協議（市作成・協働協議） ●豪雨災害に伴う地域包括支援センターの対応と市との連携協議（令和３年度も継続協議中） ●障がい者相談支援センターとの連携体制の構築 ●各センター間の情報共有（課題への吸い上げ）



事業名	機能別部会：権利擁護部会
事業の目的	「支援者不在の方への支援」課題に関する整理分析の取り組み（平成30年度～令和２年度）



事業名	機能別部会：包括的継続的ケアマネジメント支援部会
事業の目的	○家族介護者の支援の視点 ・ケアマネジメントにおいてケアマネジャーが介護離職、ダブルケア、ヤングケアラー等、介護者が抱える課題を的確にとらえられるようになることを目指し、更にはケアマネジャーが主体的に課題をとらえられる事を目的とする。
事業概要	包括居宅の主マネ合同研修の計画策定 ◎（ねらい） ・共同開催することで、主任ケアマネで牽引していくことに意識できる。主任ケアマネとしての役どころが見える。 ・ケースから見える課題解決をケアマネだけで抱え込まず、連携して解決へ導く過程という意識をもてる。個別地域ケア会議の開催。 ・地域課題を集約して解決のために政策へ展開していくことができる。 ◎（取り組み方法） ・包括から数名、居宅から数名、研修のワーキングチームを組み検討。 ・包括の部会メンバーは、全員が何かしらの役割で研修に関わる。 ・研修の形式については、参集は難しいとすると、web 活用が望ましいか。 ◎講話「ケアマネジメントにおける世帯全体・地域とのつながりを見る視点」



事業名	機能別部会：介護予防マネジメント部会
事業の目的	○介護予防ケアマネジメント業務に資する活動 ・介護予防・自立支援の基本的視点でのケアマネジメントに関するもの ・インフォーマルサービスを含む介護予防・生活支援サービス等の効果的活用に関するもの ・重度化防止の取り組みの共有
事業概要	介護予防ケアマネジメントに対する取り組みを市と包括が一体的に行えるよう、相互の情報共有（現状の把握・活動の意図や内容）とそれに基づく調整・協働を目的にしつつ、昨年度はさらにコロナ感染予防時下における活動として以下の体制を整備することを部会の活動の中心として進めた。 ◎情報共有を密に行う：MCS・ZOOMを中心にタイムリーな情報共有を行えるよう体制整備を行う。 ◎情報共有内容について ・感染予防について：介護予防の場となる地域の通いの場・サロン・カフェ・その他の場における感染予防について「どんな不安があるか」「どんなところを注意すべきか」等の現状把握と具体的な対応方法の共有（内容・周知範囲）を行い、すべての場が安心して活動できるよう働きかける。 ・コロナ渦での介護予防について： ① 通いの場等の支援については各地域の場の「開催状況」また「工夫」や「開催できた好事例」などが共有されることで、現時点で開催に不安を感じているところへの働きかけの方法が共有できる。（支援については自粛要請等とを鑑みながら関連職員が足並みをそろえて働きかける） ② その他の介護予防については現状把握をしながら、さまざまな働きかけのアイデアを共有しつつ、一体的な動きについても協働していけるよう情報共有を行う。 ◎さまざまな場面において介護予防の働きかけができるよう、関連機関と連携・働きかけを行う。一つの手段として認知症セミナーで展示した「包括支援センターの紹介ポスター」について関連機関に周知しつつ、活用の場面を模索。 ◎介護予防手帳については介護予防が自己管理の下行わることを支援するツールとして、今後の周知広報の方法を市と協働し、その他関連機関と協力しながら推進していく。※以上の情報共有を市・包括・SC・おれんじと連携を図りながら進めるとともに、得た情報については各包括部会員が包括内での共有を行う。

6 自立支援型地域ケア会議

【開催目的】

高齢者の自立支援に資するケアマネジメントの支援や高齢者のQOLの向上、介護給付の適正化の取り組みに資することにより、医療・介護・住まい・生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の実現を目指すために開催した。

また、会議を通して、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員のスキルアップを図るとともに、検討事例を積み重ねることにより地域課題の把握につなげた。

令和2年度は、市主催については、1回の開催につき3事例を検討し、合計11回32事例の検討を行った。また、令和2年度より、市主催に加え、圏域内でのネットワーク構築に寄与するため、地域包括支援センター主催の自立支援型地域ケア会議を開催した。地域包括支援センター主催分については、1回の開催につき2事例を検討し、全14センターで合計14回28事例の検討を行った。

【参加者】

- ・コーディネーター：長寿支援課・介護保険課職員、基幹型地域包括支援センター職員
- ・事例提供者：地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所職員、小規模多機能型居宅介護事業所職員
- ・助言者（薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士）

【令和２年度の開催】

(市主催)

7/1 7/22 8/27 9/17 10/1 10/14 11/11 12/10 12/22 1/21 2/17 12/4 12/18 1/21
2/17

※新型コロナウイルス感染症拡大の状況につき、4/22、5/20、6/11、6/18 開催分は中止とした。

(センター主催)

7/1 7/29 8/4 8/6 9/2 9/11 9/25 10/8 10/21 10/28 11/18 11/25 12/4 12/17

7 地域ケア調整会議

【開催目的】

包括的支援事業を担う多機関が把握・整理した地域課題のうち、多機関で共有して協議・対応すべき課題について、解決に向けた方向性と役割分担等を協議し、一定の方向付けを行った。

【参加者】

各機能別部会代表者、おれんじサポートチーム、在宅医療・介護連携室ポピー、生活支援コーディネーター、基幹型地域包括支援センター、居宅介護支援事業所連絡会代表者、福祉まるごと相談員、山形市長寿支援課・介護保険課

【令和２年度の開催】

9/3・2/18

Ⅱ 各地域包括支援センターの活動

1 済生会なでしこ地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月30日	・令和元年度 事業報告 ・令和2年度 事業計画 ・情報交換「各地区の状況と今後の取り組み、地区活動再開に向けて」

◇ 地区別ネットワーク会議（民生委員懇談会） 2回

◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 10回

◇ 地区役員定例会への参加

	千歳地区	出羽地区	明治地区	大郷地区
民生委員児童委員定例会	1回	1回	2回	なし
福祉推進会議（地区社協總會を含む）	1回	なし	なし	なし

◇ 地区行事への参加

千歳地区：福祉協力員研修会 2回

出羽地区：福祉協力員全体会 2回

明治地区：福祉協力員研修会 1回、文化祭、介護者激励懇談会

大郷地区：福祉協力員研修会 2回

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止の為、行事等自粛となった。

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 圏域内居宅事業所研修会（人生の振り返りが出来る片付けの極意） 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 5回

◇ 圏域内事業所研修会

2回

(介護支援専門員研修会、居宅介護支援事業所へオンライン研修についてのアンケート)

◇ 地域密着型サービス事業所運営推進会議

5回

4 介護予防の取り組み

◇ 通所型サービス B(ひとあひ処「合」)の継続支援活動

5回

◇ 介護予防教室(ながいき元気くらぶ)

6回

紹介したい取り組み

事業名	①介護予防教室(ながいき元気くらぶ) ②地区文化祭にて感染予防指導(手洗いチェック)
事業の目的	地域住民に対しての介護予防の意識や感染予防の知識の普及啓発を行う。 住民との交流と通じて顔の見える関係づくりを行う。
事業概要	①介護予防教室(ながいき元気くらぶ) 9～11月開催(計6回) 会場：山形済生病院南館、出羽・大郷コミュニティセンター 山形済生病院、圏域内の企業・介護事業所との協働で、フレイル予防のための軽体操やストレッチ、感染予防のための手洗い講座、お菓の話、お片付け講座等を開催。 ②明治地区文化祭 会場：明治コミュニティセンター コミセンの入り口にて体調確認や検温など感染対策を行ったうえでの開催。 手洗いチェッカーを用いて、手洗い方法・感染防止について学ぶ。約60名の参加。
成果または感想	「ながいき元気くらぶ」は圏域内高齢者の介護予防教室で、感染対策を行い人数を制限しながら開催した。地域活動が自粛されているなか、通いの場の再開がされていない地域がほとんどで、地域住民から「運動がしたい」との声を受けプログラムを設定した。毎回、講座と運動を組み合わせで行い、運動の回になると皆さん伸び伸びと体を動かし、大変好評いただいた。 例年地区の文化祭にて健康相談コーナーを実施しているが、感染の心配から文化祭が中止され、今年度唯一明治地区が開催され参加した。感染対策のニーズが高まっている現状に合わせ、手洗いの仕方について実際に「手洗いチェッカー」を体験していただいた。誰でも簡単に取り組み「手洗いチェッカー」の珍しさもあり、子供から高齢者まで多くの方が自分の手洗いを確認されていた。子供達は学校でも指導を受けているためか綺麗に手洗い出来ているのが印象的であった。今後も地域の方の健康増進につながる活動を支援していきたい。

2 地域包括支援センター大森

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
2月25日	3 地区合同・令和2年度 地域包括支援センター大森活動報告について ・令和3年度 地域包括支援センター大森活動計画案について ・高齢者実態把握調査の結果を踏まえ、各地区の実態について ※ 新型コロナウイルス感染予防のため、規模を縮小して実施した。



◇ 地区役員定例会への参加 27回

◇ 地区行事への参加

高瀬地区：高齢者支援連絡会、地域福祉推進会議、福祉協力員研修会

楯山地区：合同研修会、買い物支援打合せ、福祉協力員研修会

山寺地区：福祉協力員研修会、地区社会福祉協議会全体会議

その他：各地区三者懇談会参加 15回

◇ センターだよりの発行 6回

◇ ホームページの掲載、更新 随時

<http://www.sunshineoomori.jp/houkatsu/>

(平成30年度リニューアル)

◇ 高瀬地区買い物支援、楯山地区買い物支援連絡会への参加

2 権利擁護業務

◇ 成年後見制度申立支援 1回

◇ 消費者被害防止の啓発講話 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 圏域内介護支援専門員連絡会

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、年度内の開催は見送り令和3年度に繰り越し、ZOOMにて開催予定。

◇ 介護支援専門員個別支援 8回



4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 介護予防教室（まるっと☆おおもり） 1 回

（歯科衛生士による お口の健康について）

◇ 高瀬地区、清水地区いきいき百歳体操継続支援

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、8月下旬からの再開となった。感染対策を行いながらの再開となるため、感染対策に関するチラシを作成し、説明を行った。



◇ 新型コロナウイルス感染予防及び自宅で出来る運動についてのチラシやマスクの配布

紹介したい取り組み

事業名	まるっと☆おおもり お口の健康について
事業の目的	介護予防教室は毎年開催しているが、ニーズ調査でも高リスクに該当することに加え、マスクをすることが当たり前となり、他人と会話する機会も減少している為、ますます機能低下が心配される口腔機能にスポットを当てた。
事業概要	高瀬地区の住民主体の通いの場であるいきいき百歳体操終了後に、山形県歯科衛生士会の方を講師としてお招きし開催。模型やポスターを使いながら口腔機能の重要性について説明頂いた。マスク着用のままではあったが、唾液腺マッサージも一緒に実践した。 また、開催にあたっては地区の定例会での告知やチラシを作成し回覧を行い、広報活動も行った。
成果または感想	通いの場に引き続いて開催したことにより、冬季ではあったが参加される方も多く、より健康に関心がある方達の参加を促すことができたと思う。質問がいくつか出るなど、興味関心を持って参加して下さっていることが分かった。ただ、圏域全体に広報活動を行ったが、参加者は高瀬地区からのみであったため、今後は各地区で開催を検討していきたい。



③ 地域包括支援センター敬寿会

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
3月4日	令和元年度の活動報告、次年度に向けて



◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
8月6日	東沢	・令和2年度活動計画について ・新型コロナウイルス感染症予防と地区活動について現状報告と情報交換
	鈴川	

◇ いきいきサロン等への参加 1回

◇ 地区役員定例会への参加 23回

◇ 地区行事への参加

東沢地区： 東沢地区社協定例会
福祉協力員ネットワーク
東沢地区民生委員児童委員・福祉協力員研修会

鈴川地区： 鈴川地区社協評議委員会
鈴川地区社会福祉協議会常任理事会
我がごと丸ごと地域づくり定例会
鈴川地区福祉協力員研修会
浜田町内会三者懇談会
鈴川地区福祉関係者研修
地域福祉活動センター「いきいき百歳体操」
鈴川交流センター「いきいき百歳体操」

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 高齢者虐待防止の啓発講話 1回

◇ 認知症サポーター養成講座 2回



3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇個別支援型地域ケア会議 3回

◇介護支援専門員への個別支援 8回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇介護予防教室 2回

◇出前講座(健康講話) 1回

◇認知症対応啓発活動 4回

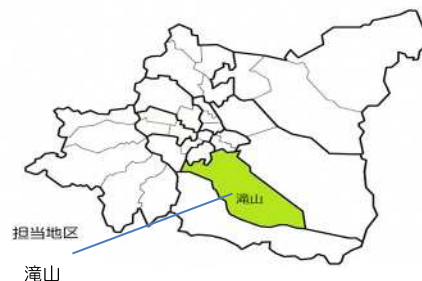


紹介したい取り組み

事業名	介護予防教室 佐藤 清先生のとっておきの話
事業の目的	鈴川地区住民の介護予防
事業概要	毎年恒例となっている、佐藤清医院の佐藤清院長より健康講話を今年も開催した。例年であれば、鈴川ことぶき荘との共催で、鈴川ことぶき荘に 80 人を超える地域住民の方に参加していただいていたが、今年は新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から鈴川コミュニティセンターにて、参加人数を制限しての開催とした。 講話内容は毎年佐藤医師に一任しており、今年は「新型コロナウイルスを知り、感染しないために」というテーマで講話していただいた。 また、講話後山形市健康ポイント事業「SUKSK」について地域包括支援センターより説明を行い、事業の啓発活動を行った。
成果または感想	毎年開催している事業であるが、新型コロナウイルス感染予防の観点から開催場所を変更しての開催だった。そのため、参加人数は半減したが、市外からや若い世代の参加者がおりこれまでとは違った反応が見られた。内容も時事的なものであったため、大変好評であった。 また、「SUKSK」に関し説明を行ったことで事業への理解を得られ、多くの方に『人生備えの書』を持ち帰って頂いた。



4 たきやま地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月30日	意見交換「コロナ禍での活動再開に向けて」「地域の困りごとの把握について」
3月19日	意見交換「地域で支える高齢者の避難について」

◇ 地区役員定例会への参加 9回（民生委員児童委員協議会定例会）

2回（地区社会福祉協議会幹事会）

◇ 地区行事への参加

滝山地区：我が事まると地域づくり（10回）、福祉推進会議、福祉研修会、社会福祉協議会代議員総会、福祉協力員研修会、青少年健全育成協議会、等

◇ 介護保険事業所連絡会 1回 代表者会議 1回

◇ センターだよりの発行 6回



2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座の開催 2回

◇ 周知啓発 7回

◇ 権利擁護に関するケース対応 11回

◇ 認知症予防教室 4回

◇ カフェ（漢カフェ 1回 認知症カフェ 1回）

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員連絡会（情報交換、事例検討会等） 11回

◇ 看護・小規模多機能型居宅介護支援事業所連絡会 1回

◇ 介護支援専門員への個別支援 11回

◇ 地域ケア会議 10回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 12回

◇ 訪問看護事業所連絡会 2回

◇ 通いの場の立ち上げ支援（体操指導・体力測定） 13回

◇ 高齢者レクリエーション（カップス） 2回

紹介したい取り組み



事業名	若い世代の認知症理解の推進と見守りネットワークの構築
事業の目的	- 小学生をはじめとする若い世代に対する認知症の理解、啓発 - 子どもも高齢者も安心して暮らせる地域づくり
業概要	滝山小学校 4 年生を対象にした福祉学習の中で、子どもを通じて親世代へ伝わる認知症理解を目的に、認知症サポーター養成講座を開催。また、学区内の 12 の介護サービス事業所に設置した子ども 110 番連絡所と高齢者見守り連絡所（次年度設置予定）について周知した。高齢者見守りと子どもの防犯機能を併せ持つ地域の拠点づくりを進める。
成果または感想	小学校でのサポーター養成講座の開催は 4 度目となり、子どもたちの間でオレンジリング（認知症サポーターの証）が認知されてきた。ランドセルにオレンジリングを付けた上学年の姿は、下学年の憧れとなっている。普段高齢者と接することが少ない小学生に、認知症を恐れず正しく知ってもらうことが重要と感じた。今後も、地域の全世代で見守っていくという意識づけを進めていきたい。

事業名	滝山圏域内居宅事業所連絡会
事業の目的	コロナ禍だからこそ、各事業所間の情報交換や介護支援専門員同士の顔の見える関係作り、事例検討を通じての資質向上を図る。
事業概要	圏域内の居宅事業所における全介護支援専門員を対象に毎月 WEB で連絡会を開催及び事例検討会を開催した。
成果または感想	WEB での情報交換を提案。負担がないように配慮し全ての事業所より参加していただく。圏域内の介護支援専門員の横の繋がりや包括的・継続的な支援体制を構築することができたと感じる。また小規模多機能型居宅事業所についても同様に連絡会を立ち上げ R3 年度定期開催することになり介護支援専門員の支援につなげたい。

事業名	あんしん定期便
事業の目的	地域包括支援センターの業務内容や主な予定、消費者被害等の啓発について関係機関や地域住民へ周知し、高齢者の地域生活の安心に繋げる。
事業概要	年間 6 回（5・7・9・11・1・3 月）広報誌を作成し滝山圏域の住民、介護サービス事業所、医療機関、薬局、市内総合病院、警察署、交番等に配布し周知・啓発に努めた。
成果または感想	コロナ禍で思うように外出や活動ができないとの声もあり、体力の低下や気持ちの落ち込みに負けないよう「コロナに負けない活動表」を作成し回覧。また、「居間から百歳体操」DVD を希望者に配布。在宅時間を有意義に過ごして頂けるような内容を中心に情報発信に取り組むことができた。

5 地域包括支援センターふれあい



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会開催

開催日	主な議題
5月中旬	新型コロナウイルス感染防止のため書面会議とした ① 令和元年度 地域包括支援センターふれあい 事業報告書 ② 令和2年度事業計画 ① ②をお届けし、ご意見をいただき活動の参考とした
10月17日	「地域共生社会をめざして」をテーマに、第六地区社会福祉協議会、生活支援コーディネーターと共催。

◇ いきいきサロン等への参加 15回

◇ 地区役員定例会等への参加 22回
(民生委員児童委員協議会定例会・第六地区社会福祉協議会事務局会議)

◇ 地区行事への参加
第六地区：地区社会福祉協議会総会（事業開催に向けた会議等にも参加）福祉協力員研修会、老人クラブ総会、福祉推進会議、町内会総会、等

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター勉強会 4回

◇ 認知症カフェ（ふれあいほっとするカフェ） 1回

◇ 消費者被害防止啓発ボランティア交流会 1回

（新型コロナウイルス感染拡大防止のため交流会は中止。ボランティアより今年度の活動を振り返る意見等をいただき誌上交流会として配付した。）

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員連絡会・情報交換会 4回

◇ 福祉関係者交流会 1回（交流会は中止し、「福祉ガイドブック」を作成）

◇ 「支え合い事業」プロジェクト 2回

◇ 介護ふれあい交流会開催支援 開催3地区／話し合いまで2地区

◇ サービス事業所連絡会・地区貢献支援活動 3回

◇ 医療関係者連絡会 1回（連絡会は中止し、ACP(アドバンス・ケア・プランニング)のサポートを実施)

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ ふれあい健康講座

（健康講座の代替えとして、口腔ケアについて歯科医よりコメントをいただき、健康かわら版を発行）

◇ 通いの場継続支援（11カ所の通いの場に巡回、体力測定（1回））

◇ 健康かわら版の発行 3回

◇ ふれあい版運動プログラムの発行 3回

◇ 出前講座（介護予防 認知症 栄養講話・・・）7回

紹介したい取り組み

事業名	第六地区ネットワーク連絡会 ～地域共生社会をめざして～
事業の目的	高齢者だけでなく、子どもや障がい者など様々な人が共に暮らしており、互いに思いやり、支え合い、つながり合える地域を目指して、高齢者、障がい者、子どもなどの分野の関係者と意見交換をする。
事業概要	第六地区では毎年、一つのテーマをあげて、それに関わる方々との意見交換、交流会を行っている。令和2年度は前年度に引き続き、地域共生社会についてネットワーク連絡会を行った。新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、事前に第六地区で活動している障がい関係、子ども関係などの事業所に集まっていただき意見交換を行った。各事業所からは、障がい児の放課後等デイサービスが不足していること、災害時に地域と連携を取りたいと思っていること、制度ではどうしても救えない事例があること、利用者ご本人だけでなく家族の問題が増えており、家族の支援が増えていることなど、それぞれの事業所が抱えている悩みを知ることができた。 事前に話し合った意見を踏まえ、高齢者関係、障がい者関係、子ども関係、それ以外の代表の事業所に参加して頂き、令和2年10月17日に大島医院にて第六地区ネットワーク連絡会を開催した。
成果または感想	第六地区内にある事業所から、4つの事業所に代表して参加していただき、それぞれ事例の紹介をしていただいた。他にも、自治推進委員会、地区社協事務局役員、民生委員、福祉協力員、老人クラブ連合会、山形市生活福祉課、長寿支援課から参加していただき、事例紹介後にそれぞれ意見や感想を話し合った。参加者からは、地区の見守り活動の大切さを再確認した、多機関に渡る地域づくりにはますます連携が大切、など多くの意見をお聞きすることができた。 まずは共に暮らしている地区の住民の現状に関心を持つことが必要。第六地区には心強い、福祉の方や専門家がいることを再確認することができた。次回は具体的につながり合うために何が必要か検討していきたい。

6 山形西部地域包括支援センター

1 総合相談業務



◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
12月15日 (※中止)	「災害からの学びと、これからできる新たな繋がりを考える」 福祉施設・事業所と地域住民協働による地域づくりを目指して～

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
7月10日	南山形	報告：令和元年度包括支援センター運営状況 情報交換 「地域全体で高齢者の日常生活を支えるために」 ～これからも住民同士がつながりつづけるために～
7月1日	本沢	
7月3日	西山形	
7月16日	村木沢	
7月6日	大曾根	

◇ いきいきサロン・通いの場への参加 34回

◇ 民生委員児童委員定例会/村木沢丸ごと相談会への参加 21回

◇ 地区関係者・住民向け研修会/会議/行事等への参加 19回

◇ 福祉施設・事業所と地域住民協働による地域づくり事業情報交換 2回

◇ 主な地区行事への参加

南山形：福祉協力員研修会、福祉道場、まるごと相談（つむぐ会）福祉推進会議打合せ
本沢：三者懇談会、福祉協力員研修会、サロン座談会、買物バス交流会、相談員情報交換
西山形：はつらつ元気教室、介護者サロンいっぷぐ会
村木沢：社会福祉部研修会、我が事まるごと報告会
大曾根： ※コロナ禍による事業の見合わせ
全地区：7月の豪雨災害時・・・避難所訪問

◇ はつらつ生活出前相談の開催（医療福祉情報） ※コロナ禍による事業中止

◇ 西山形介護者サロン「いっぷぐ会」 4回（集会所やコミセン）

◇ 認知症カフェ 5回（市営南山形住宅）（みこころの園南山形：開催自粛）

◇ 本沢地区元気もりもり応援隊活動支援 18回

◇ センターだよりの発行 5回（コロナ関連で臨時号）

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 1回
- ◇ 出前相談等（消費者被害/エンディングノートの紹介等） 5回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 個別地域ケア会議の開催 17回
- ◇ 圏域内居宅連絡会・幹事会 6回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 12件
- ◇ 自立支援ケア会議 2回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 介護予防講座:西山形はつらつ元気教室（コミセン/地区共催） 1回
- ◇ いきいきサロン・通いの場への参加 前記

紹介したい取り組み

事業名	令和2年度 南西部地区居宅介護支援事業所連絡会	
事業の目的	圏域内ケアマネジャーにおけるネットワーク構築	
事業概要	圏域内居宅介護支援事業所5つ、小規模多機能型居宅介護支援事業所2つ 第1回：令和2年9月16日(水) 内容「コロナ禍におけるケアマネジメント」「災害下における要介護者の避難関連」に関する情報交換 会場：菅沢荘 参加人数：20名 ※情報交換に際し、事前アンケートを集計、当日それを参加者に示しながら情報交換する。 第2回：令和2年11月6日(金) 内容「山形市避難行動支援制度および災害時の福祉避難所について」 山形市防災対策課より概要説明、情報交換 会場：本沢コミセン 参加人数：24名 ※事後振り返りをし、不明な点をまとめ、再び防災対策課へお聞きし、マップや福祉避難所マニュアルも一緒に“災害を振り返るファイル”に綴じて、事業所へ配布しました。	
成果または感想	例年4回開催のところ、令和2年度は感染対策をしつつ、集合形態で2回開催しました。 令和2年7月豪雨により、圏域内のあちらこちらで、川の増水氾濫、土砂崩れがおき、当日の避難所周りや避難誘導などに対して地域やケアマネジャーからの問い合わせがありました。今後も頻発すると言われる災害に備え、地域でケアマネジャーと共に何ができるのか、考え行動する一助となりました。	

7 篠田好生会さくら地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
3月12日	令和2年度活動報告、事例の報告「身寄りのない方への支援から見えてきた課題」

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
10月9日	第一	令和1年度活動報告 テーマ「新型コロナウイルス感染症について学び、今後の暮らしを考える」
10月29日	第二	① 「新型コロナウイルス感染症予防と介護予防の両立」について ② 「サロンの状況」 ③ 「フレイル予防～運動について～」 ④ 意見交換

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 1回
- ◇ いきいきサロンへの参加 16回
- ◇ 地区役員定例会への参加 52回（民生委員協議会定例会 等）
- ◇ 地区行事への参加

第一地区：正副会長会、地区社会福祉協議会理事会、地区社会福祉協議会総会、福祉協力員研修会、福祉推進会議、福祉懇談会

第二地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、地区社会福祉協議会総会、地区社会福祉協議会事業打ち合わせ会

- ◇ 出前相談 39回
- ◇ センターだよりの発行 5回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 0回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 5回
- ◇ 圏域内居宅連絡会（医療機関/民生委員との情報交換会、事例検討会等） 0回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 50件

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 5回

紹介したい取り組み

事業名	おれんじカフェ さくら（第一地区認知症カフェ）	
事業の目的	第一地区住民の方々の健康維持・認知症予防を支援する。	
事業概要	主催は当センターで、第一地区社会福祉協議会が共催。平成30年11月に試験的に開催し令和元年より偶数月の第三金曜日に固定し開催している。令和2年度はコロナ感染予防のため、1回のみ・少人数・短時間での開催となった。おれんじサポートチーム、生活支援コーディネーター・ボランティアと企画。内容は、認知症のミニ講座・脳トレ体操・談話など。同時に専門職の相談窓口も開催（我が事・丸ごと地域づくり事業）	
成果または感想	地区役員2名の協力や地域の認知症サポーターの方もスタッフとなっている。物忘れ症状を感じている10名に声掛けし、参加。認知症予防について説明し、楽しみながら手や足を動かし、予防できるように取り組んだ。 カフェに参加して仲間とつながり、様々な情報交換ができる場としていきたい。	
事業名	チームわん・つー！（圏域内福祉関係事業所の集まり）	
事業の目的	圏域内事業所（他機関同士）の横のつながりをもち、情報交換をする。地域の事業所や専門職と地域がつながれる機会をもてるようにする。	
事業概要	ネットワーク連絡会を通じ、地域内の医療・介護・障害の専門職同士が顔を合わせて情報交換ができる場が必要ではないかとの声が上がリ、令和元年6月より2カ月に1度開催となった。 令和2年度はコロナ感染予防のため、Faxでアンケート調査を行い、結果をまとめ報告し、多くの事業者が感染予防に取り組んでおり、お互い情報共有する機会となった。 9月と11月には集会とし、コロナ感染症予防研修会の伝達やコロナの影響で困っている事例などについて情報交換を行った。R3、3月にはZOOMでの研修を開催した。	
成果または感想	コロナ感染拡大予防により、Faxでのやり取りや、集会、ZOOMなどさまざまな方法で情報共有できるよう取り組んだ。 感染予防対策に取り組むつつ、顔の見える関係を構築できるよう支援していきたい。	

8 地域包括支援センターかがやき

1

総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会



開催日	主な議題
7月30日	① 平成31年度地域包括支援センターかがやき事業報告について ② 令和2年度地域包括支援センターかがやき事業計画について ③ 地域ケア会議における個別事例検討の実績報告 ④ 各地区の高齢者支援に関する情報交換
3月2日	① 令和2年度地域包括支援センターかがやき事業 中間報告について ② 令和3年度地域包括支援センターかがやき事業計画の策定について ③ 各地区・各団体の今年度活動実績、次年度の活動計画等について

◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 7回

◇ 地区役員定例会への参加 25回

◇ 地区行事への参加（一部のみ記載）福祉協力員連絡会・研修会、地区社会福祉協評議員会総会、地域福祉推進会議、北部公民館つながり支援講座、嶋北町内会防災計画策定会議等 多数

◇ センターだよりの発行 4回（4月・7月・10月・1月発行）

2

権利擁護業務

◇ 虐待防止に関する住民への周知を図るため、広報誌に「虐待発見チェックリスト」を掲載した。

◇ 権利擁護相談 32件、（延べ件数37件、新規相談受付分のみカウント）

項目/ 地区	第3地区	第4地区	第9地区	その他	不明	延べ件数
後見関係	3	1	0	0	0	4
虐待関係	5	1	1	2	0	9
生活困窮等	3	2	3	0	0	8
その他	7	6	3	0	0	16
計	18	10	7	2	0	37

総合相談として受け付けた新規相談のみをカウントしている。今年度はCOVID-19の影響もあり深刻な相談が多い印象もある。生活困窮などの相談はコロナ禍における公的支援の窓口が市社協になり、積極的広報も行われたことから直接行かれた方も多いと推測される。高齢で働きながら生活を維持していた方が疾患・失職により困窮したり、身寄りのない方の相談が増加。虐待対応については疑い段階の相談はなく、すべてにおいて事実確認されている。上記件数には含まれないが、コロナの影響で離れている家族に連絡がつかないといった安否確認の相談が8件あった。

3

包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 7回

◇ 圏域内介護支援専門員連絡会

2回（連絡会・研修会）

◇ 圏域内ケアマネに、コロナ禍での研修方法等についてアンケートを実施

介護支援専門員研修会 10/5	個別支援 (介護支援専門員からの相談に対する対応)
第1回圏域内介護支援専門員研修会 「ポピーねっとやまがた MCS を使った多職種連携」 山形医師会 在宅医療・介護連携室ポピー 社会福祉士 鹿野詩子氏 「訪問看護の活用」 山形医師会 在宅医療・介護連携室ポピー 室長補佐 徳田喜恵子氏 ・その他研修等は、コロナ禍で自粛	ケアマネからの個別相談は9件寄せられた。包括支援センターと連携のうえチームでかかわる意識が高まり、気軽に相談できる環境が整ってきたことも影響していると思われる。また、個別地域ケア会議開催件数は7件となっており、包括主催で、関係機関等との支援チーム形成を早期に行ったことで、ケアマネの個別支援に繋がっている。 ・対応の主なものは、個別ケースへの対応方法に関することが多いが、その中でも精神疾患のある高齢者や家族への対応、高齢者虐待や経済困窮、認知症に関する事等相談が多く寄せられた。

4 介護予防ケアマネジメント業務

「住民主体の通いの場」については、予防推進係及び生活支援コーディネーターの協力を得て、立上げ支援や継続支援等を行なった。開催場所として、地域内の介護事業所などに場所の提供をお願いしている。住民が主体となって運営が継続的に行われており、参加者同士のゆるやかな関係性の中で生活支援等の互助も進んできている。市内の新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言下では中断。

◇ 介護予防教室 述べ401名参加（コロナ禍で活動自粛）

◇ 出前講座（介護予防に関する内容） コロナ禍で実施できなかったが、介護予防手帳を配布。

＜紹介したい取り組み＞

◇ 「シニアライフをかがやかせるための仲間づくり・健康づくり講座」フレイル予防
10月～11月にわたり全4回、以下の企画を実施し、延べ129名参加。アンケート結果の満足度も高く、栄養摂取状態の個人結果がこう好評だった。

10/22 10/29 11/5 11/11 北部公民館 大ホール 各回30名程度

- ・「フレイルチェック」「コロナに負けない身体作り①」
- ・「食べることはフレイル予防の第一歩 DHQ テスト」「コロナに負けない身体作り②」
- ・「健口作りが健幸生活のカギ！」「コロナに負けない身体作り③」
- ・「新しい生活様式をふまえた認知症予防」「コロナに負けない身体作り④」



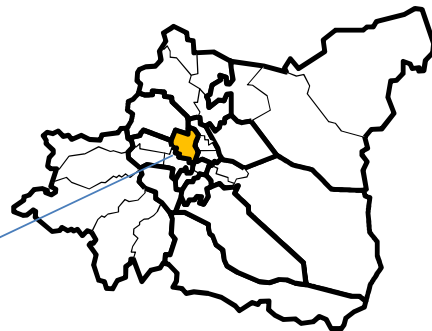
9 山形市社会福祉協議会 霞城北部地域包括支援センター

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月8日	- 令和元年度活動実績報告 - 令和2年度活動計画と支援計画について協議 - コロナ禍における各機関の対策・困りごとについて情報交換 - ネットワーク交流会について協議
3月10日	- 令和2年度活動実績報告・支援計画と重点活動振り返り - 令和3年度活動についての協議

担当地区
第七



◇ 地区ネットワーク交流会 新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止

◇ いきいきサロンへの参加 8回

◇ 地区行事・会議への参加

福祉協力員ブロック代表者会議、地区社協評議員会、福祉協力員研修会、
三者懇談会（城北町・清水町・肴町一区）、第七地区健康推進事業、地域福祉推進会議、
第七地区子育てサロン、サロンスタッフのサロン

◇ センターだよりの発行 3回

- ・65歳以上高齢者宅全戸配布
- ・公民館・金融機関・医療機関・歯科医院・薬局・交番・介護保険事業所に配布

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座 3回

◇ ヨークベニマル下条店訪問

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員への個別支援 19回 ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 9回

◇ 圏域介護支援専門員連絡会（霞城西部・金井とzoomにて合同開催）

◇ 医療連絡会（霞城西部・金井と合同：聞き取り訪問）

◇ 金融機関連絡会（霞城西部・金井と合同：聞き取り訪問）

◇ 圏域サービス事業所研修会（霞城西部・金井と合同：アンケート実施）

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 出前講座（介護予防に関する内容）

7回

紹介したい取り組み

事業名	コロナに負けない！介護予防体操（江南公民館共催）
事業の目的	新型コロナウイルス感染拡大防止の為自粛が続く中で閉じこもりや活動時間の減少が心配である。自宅でもできる介護予防体操を学び継続し介護予防をすすめていくことを目的とする。
事業概要	江南公民館との共催。感染予防対策を取りながら自宅でもできる介護予防体操を実施する。講師：伊藤接骨院伊藤先生（ネットワーク連絡会委員）
成果または感想	会場の換気・健康チェック・消毒・距離を保ちながら実施するなどの対策を行いながら実施した。運動不足になっているので講座で覚えた体操を自宅でもしていきたいと思うと前向きな参加者の感想があった。
事業名	皆川町内会のんびりウォーク ～石垣群と龍門寺をめぐるウォーク・水害危険個所を確認しよう～
事業の目的	新型コロナウイルス感染拡大防止の為自粛が続く中で閉じこもりや活動時間の減少が心配である。町内会のウォーキングコースを作成し、普段から歩くことの大切さを周知し介護予防を啓発する。また、町内の史跡や歴史を知ることや水害の危険個所を確認し災害に備えることを目的とする。
事業概要	町内会のウォーキングコースを作成。地域の歴史を知る方の説明を聞きながら、龍門寺や石垣など町内にある史跡をめぐる。水害危険個所を歩いて確認する。
成果または感想	町内に住んでいたのに、なかなか地元を歩くことはないもので、ゆっくり史跡を見るのは初めてだったとの声や、近所なのでウォーキングを継続して行きたいとの感想がきかれた。



『皆川町内会のんびりウォーク』
～石垣群と龍門寺をめぐるウォーク・
水害危険個所を確認しよう～



『コロナに負けない！介護予防体操』

10 山形市社会福祉協議会 霞城西部地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
7月22日	- 令和1年度活動実績報告、地域の支援計画について - 感染対策をしながらの地域活動や訪問活動のあり方について意見交換
3月17日	令和2年度活動報告、意見交換

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
1月25日 2月2日 2月9日	第十	『第十地区 地区福祉活動計画について』 ① 感染防止のため一斉に集まることを避け、民児協定例会、福祉協力員世話人研修会、地区社協常任理事会で活動計画(案)について説明、意見を募った。来年度からの地区の動きを確認し合い、地域福祉推進会議と位置付けた。
10月16日	榎沢	『災害に強いまちづくり』高齢者の安全安心をどう確保するか ① 基調講演 防災アドバイザー 佐藤明氏 ② パネルディスカッション 上榎沢、下榎沢、西原の現状報告、意見交換
	飯塚	開催中止

◇ いきいきサロン等への参加 7回

◇ 地区役員定例会への参加 2回

◇ 地区行事への参加 29回

第

第十地区：福祉協力員代表者会、民生委員児童委員協議会、認知症カフェ企画検討チーム、城西一区三者懇談会、地区社協理事会、我が丸検討会

飯塚地区：福祉協力員研修会、バスの乗り方講座、飯塚地区の交通課題を考える会

榎沢地区：地域福祉推進会議、福祉協力員研修会、地区福祉活動計画策定委員会

◇ センターだよりの発行 3回

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座の開催 2回（大原学園、榎沢地区）

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員個別支援 20回 ◇ 自立支援型地域ケア会議 2回
- ◇ 地域ケア会議 5回 ◇ 包括中央ブロック情報交換会 1回
- ◇ 金融機関連絡会(霞城北部・金井と合同) 聞き取り調査 1回
- ◇ 医療機関連絡会(霞城北部・金井と合同) 聞き取り調査 1回
- ◇ 居宅介護支援事業所連絡会(霞城北部・金井と合同) ZOOM 開催 1回
- ◇ 認知症カフェ 2回

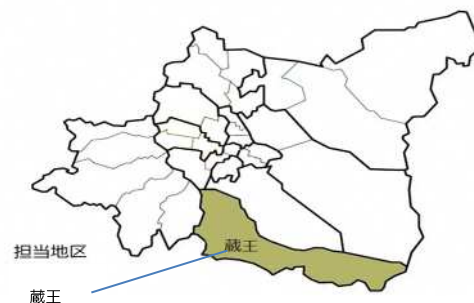
4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容）9回

紹介したい取り組み

事業名	認知症について学ぼう（認知症カフェ）
事業の目的	第十地区では、認知症になっても住み慣れた地域で支え合い、健やかに生きがいをもって暮らせるまちづくりを目指して、いち早く H30 には、認知症声かけ訓練等の取り組みを行ってきた。地域での見守り体制づくりを行うとともに、認知症になっても集える場所が必要という認識に至り、地域と様々な関係機関が連携をしながら、地区内に認知症になっても気持ちよく過ごせる居場所を作っていくことになった。
事業概要	第十地区では、地区社協、町内会、大原学園、おれんじチーム等と認知症カフェ企画検討チームを立ち上げ、じょうなん認知症カフェ～in 大原学園～を企画してきた。第十地区内の方からそこでは遠くて参加できない等の声が寄せられていたため、他の場所で気楽な形での開催を検討していた。町内会でサロン開催している町内会役員から、サロンの中で認知症カフェを実施したいとの相談があり、町内会役員、包括、居宅介護支援事業所で内容等を協議し、集会所で実施しているサロンの中で、認知症カフェを開催してみることにした。認知症への理解を深めていくものとして寸劇「あるある物語」を見てもらい、グループごとにフリートークを楽しんだ。
成果または感想	・定期開催しているサロンであることから、気軽に開催できることが良かった。参加メンバーは決まった方にはなるものの認知症への理解をすすめる方法、居場所づくりとしては有効だと思われた。参加者も楽しみながら認知症を身近に考える機会となった。来年度も継続開催を行っていく予定である。

11 蔵王地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
10月15日	蔵王地区町内会連合会・蔵王地区社会福祉協議会との共催事業 講義「災害時の高齢者等の避難支援について」 「新しい生活様式と今できる介護予防」
3月24日	蔵王地域包括支援センター令和2年度事業報告並びに令和3年度事業計画（報告） ・「高齢者の健康と生活状況調査の結果を踏まえた山形市第8期介護保険事業計画(高齢者保健福祉計画)の概要について」 ・蔵王地区地域福祉計画について

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 10回
- ◇ いきいきサロンへの参加 23回
- ◇ 地区社会福祉協議会理事会への参加 4回
- ◇ 地区民生児童委員定例会への参加 8回
- ◇ 地区福祉協力員研修会への参加 1回
- ◇ 町内会三者懇談会への参加 5回
- ◇ 山形市立蔵王第一中学校運営協議会への参加 3回
- ◇ センターだよりの発行 4回



2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 2回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 7回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 8回

紹介したい取り組み

事業名	蔵王地区健康教室（地区社会福祉協議会、蔵王包括支援センター共催事業）
事業の目的	蔵王住民に対する介護予防の意識啓発と健康寿命を延ばすための支援
事業概要	いきいき百歳体操を介護予防に特化した講話や知識習得の機会とする。
成果または感想	地区に高齢者だけでなく、地域関係者や近隣の介護サービス施設の利用者も参加し、介護予防の意識啓発だけでなく、顔つなぎの機会となっている。
事業名	若年層への認知症サポーター養成講座の開催
事業の目的	若い世代に認知症を正しく理解してもらう
事業概要	地域の中学校と看護学校の協力を得て、毎年認知症サポーター養成講座を開催している。
成果または感想	核家族が増加する中、普段の生活では高齢者と触れ合う機会が少ない子供も多く、認知症について理解を深めるよいきっかけ作りになればと考える。
事業名	町内会単位での、ふれあい・いきいきサロンへの積極的な職員派遣
事業の目的	蔵王地区住民の介護予防啓発とネットワーク構築
事業概要	ふれあい・いきいきサロンへ職員が定期的に訪問し、健康講話、旬な話題の提供、情報の伝達を行い、介護予防の意識を高められるような支援。また高齢者の異常時には速やかにつなぐ、気づくネットワークを構築する。
成果または感想	地域の民生委員、福祉協力員、町内会役員等、地域関係者とのネットワーク構築が推進できた。

センターの活動状況



山形市立蔵王第一中学校学校運営協議会
「認知症サポーター養成講座」



ふれあい・いきいきサロンへの職員派遣

12 済生会愛らんど地域包括支援センター

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会



開催日	主な議題
6月5日	・令和元年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業報告 ・令和2年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業計画 ・圏域再編について ⇒新型コロナウイルス感染拡大により行政の指示を仰ぎながら書面開催とした。年度後半に、圏域再編に伴い各地区に丁寧な説明の機会を設けるため招集型のネットワーク連絡会を開催する方向で準備を進めたが開催することができず、地域関係者等に個別に挨拶するなど対応した。

◇ 民生委員児童委員との懇談会 新型コロナウイルス感染拡大により中止

◇ 民生委員等地域の方々を通して臨時に広報紙配付協力を依頼し情報収集や啓発活動

◇ 公営住宅高齢居住者に関する懇談会（参加者を縮小して開催）

県営あたご団地1回 市営小白川住宅1回 市営松原住宅1回 市営天満住宅1回

◇ コロナ禍におけるいきいきサロン・ふれあいサロン再開に向けて助言等実施

◇ 地区役員定例会への参加 15回

（民生委員児童委員協議会定例会、福祉協力員世話人会）

◇ 地区行事への参加

第五地区：福祉協力員研修会、新任町内会長会、地域福祉推進会議打ち合わせ（新型コロナウイルス感染防止のため開催は中止）サロン立ち上げ・運営継続の支援

第八地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、三者懇談会、わが事丸ごと事業（まなび庵）打ちあわせ、地区社協主催事業（健康クラブ認知症サポーター養成講座）サロン立ち上げ・運営継続の支援

◇ センターだよりの発行 6回（定期発行のほか、臨時号2回）

2 権利擁護業務

◇ 新型コロナに関わる詐欺予防啓発（お便り）

◇ 福祉サービス利用援助事業利用及び成年後見制度申し立て支援

◇ 後見支援チーム会議

◇ 山形地方検察庁主催ケア会議出席

◇ 高齢者虐待対応（個別ケア会議の開催、関係機関会議）

◇ 圏域内コンビニ、スーパーに対し認知症対応パンフレット説明（初期中えが同行）

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 個別支援型地域ケア会議の開催 9回
- ◇ 介護支援専門員に対する支援困難事例への個別指導・相談対応 12件
- ◇ 地域密着型事業所運営推進会議 4事業所 出席1回 他書面会議
- ◇ 地域密着型通所介護事業所運営推進会議 4事業所 書面会議

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 東部公民館事業共催 いきいき100歳体操実施立ち上げと運営協力
⇒圏域内の通いの場は高齢者施設を利用しているところが多く、コロナ禍で各施設で入館制限されていることから、通いの場の再開の見通しが無い状況。しかし再開を望む地域の声が多くあり、新たな通いの場の創設を模索。東部公民館（広域公民館）と共催事業としていきいき100歳体操を実施する運びとなり感染対策に留意しながら9月より月2回定期開催している。
- ◇ 愛らんど健康講座（長寿支援課予防推進係介護予防教室重点圏域につき共催）
内容：①健康ウォーキング②新様式を楽しむお一人様レシピ（スクスクポイント対象事業）
③脳トレ体操とお口の健康（開催中止のため参加予定者に資料送付）
- ◇ 圏域移行にともなう地区踏査および引継ぎ業務

紹介したい取り組み

事業名	愛らんど健康講座（介護予防教室重点圏域）
事業の目的と概要	健康講座は経年的に開催している事業であるが、第7期計画策定におけるニーズ調査において、健康リスクの出現率が高く重点圏域の指定となって3年目である。コロナ禍の情勢に合わせて、当該年度も継続して長寿支援課予防推進係と共催し健康講座を開催した。 ① ウォーキングで心も体も健康に ②新様式を楽しむおひとり様レシピ③脳トレ体操とお口の健康（開催中止のため参加予定者に資料送付）
成果または感想	コロナウイルス拡大の影響で、開催の方法を状況に合わせておこなった。地域の中で、普段からの散歩に役立ててもらおうと、ウォーキングコースを設定し、一緒にウォーキングを行った。参加者同士でも、コロナ禍でもできる運動について情報交換もあり、運動への関心の高さがうかがえた。また、栄養指導目的である、栄養講座では「こんなに簡単だと家でも調理できそうです」など、介護予防活動につながる講座となった。

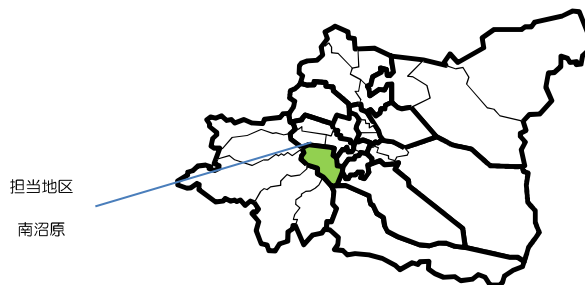


13 南沼原地域包括支援センター

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
8月6日	「新しい生活様式」に沿った地域福祉活動について ① 各団体、事業所からの活動報告と提案 ② 講話 今後の活動へのアドバイス
10月29日	「地域で備える防災」について ① 講話 南沼原地区における災害危険区域について ② 講話 地域における災害時の対応について



◇ 地域ケア会議(個別事例に関するもの) 9回

◇ いきいきサロンへの参加(バスの乗り方講習会含) 4回

◇ 地区役員定例会への参加 18回 ◇ 長寿会での講話 1回

◇ 地区行事への参加

地区社会福祉協議会総会・役員会、民生委員協議会・三役会、地域福祉推進会議、町内会連合会、福祉協力員研修会、各いきいき百歳体操、各町内会三者会議 等

◇ 出前相談 4回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ Facebookにて高齢者に役立つ情報の発信 146回

2 権利擁護業務

◇ 認知症カフェ主催 5回 ◇ 脳いきいきふれあいカフェ(相談会)参加 2回

◇ 知って得する認知症講座 1回 ◇ 商店等への認知症の普及啓発活動 8件

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 圏域内介護支援専門員管理者連絡会 10回 研修会、事例検討会等 2回

◇ 圏域内小規模多機能管理者連絡会 4回 研修会、事例検討会等 1回

◇ 圏域内事業所連絡会 4回 ◇ 圏域内運営推進会議への参加(書面含む) 32回

◇ 圏域内事業所連絡会おらっちょプロジェクト会議 7回

◇ 圏域内介護職員向け研修 1回

◇ 圏域内クリニック・薬局訪問 25ヶ所

◇ らくせいホール協議会定例会 11回

◇ かえるの会定例会 1回

◇ ICT活用プロジェクト会議 7回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ おらっちょ体操の作成 21回

◇ 通いの場立ち上げ支援 1件

◇ 出前講座「在宅療養を考える」 2回

◇ 総合事業通所B立ち上げ支援 2件

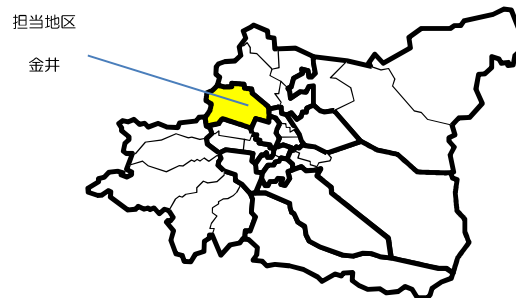
紹介したい取り組み

事業名	「おらっちょプロジェクト」セレモニー
事業の目的	おらっちょプロジェクトとは、住民と地区内の介護保険サービス事業所連絡会が共に、町内会単位で地域包括ケアシステム構築を進める取り組み。その一環として事業所が相談窓口を担うことを住民に周知するセレモニーを開催。
事業概要	住民が身近な事業所へ気軽に相談できるよう周知するセレモニー。住民からの相談に対応できるよう全事業所が研修を受講した。その研修済証と目印となる旗やバッジが住民から事業所へ贈呈された。当センターはプロジェクトに参加し、研修企画と研修動画の作成を担当した。 
成果または感想	事業所の研修は毎年実施していく予定。今後は、商店や企業、医療機関、保育園や学校などとも連携し、子ども110番機能も担い、また災害時の助けあいや日々の支えあいが広がるよう進めていく。当センターはプロジェクトメンバーとしてサポートしていく。 

事業名	おらっちょ体操の作成（南沼原発！ロコモ・フレイル予防体操普及プロジェクト）
事業の目的	ロコモ・フレイル予防を目的としたご当地体操を作成し、地域住民へ普及啓発を図り、町内会単位で健康長寿ナバーワンを目指す
事業概要	地域住民から「ご当地体操がほしい」という声と山大看護学生の分析研究から早期からのフレイル予防が重要であるとの示唆を得て、介護保険サービス事業所連絡会に属するリハビリ専門職と関係者でプロジェクトチームを立ち上げる。地域住民との話し合いを重ねロコモ・フレイル予防に効果があるオリジナルの体操を考案。【ロコモ体操】【お口の体操】【あべこべ体操】の約40分の3部構成にし、対象者や時間に合わせてセッションごとの活用も可能にした。音楽は「最上川舟歌」「真室川音頭」「花笠」を選曲し、地域住民によるピアノ演奏や替え歌、掛け声を取り入れ親しみのある楽しく取り組める体操にした。DVDとチラシを作成し地区内の役員や通いの場へ配布。また一人でも多くの方に知って頂き取り組んで貰うためYouTubeやSNSで配信した。 
成果または感想	コロナ禍で対面での話し合いが難しくなり、オンライン会議など感染対策をしながら作成した。新聞やSNSの反響で個人的な問い合わせもあり対応している。集まる場の活動が再開となれば、リハ職やSCと一緒に訪問し普及啓発を行っていく。オンラインで交流しながらの体操も企画中。

事業名	各町内会での出前講座「在宅療養を考える」 ～いまとこれからの暮らし方を元気な時から考え、そなえる～
事業の目的	より多くの住民に訪問看護を知ってもらうことで、在宅療養やACPについて考える機会をつくる
事業概要	病気を抱え介護が必要になっても、「訪問看護」を利用することで在宅生活が可能である事を知って頂く。そして在宅療養をイメージし、各自がこれからどう暮らし生きていきたいかを考え、大切な方と共有しておく事が大事であること等を伝える。地区内にある訪問看護ステーションやまがたの看護師と包括職員が地域の集まる場に出向き、参加者と対話形式で実施。 
成果または感想	コロナ禍で地域活動が自粛となる中、富の中と南館第一町内会で開催することができた。アンケートには、「訪問看護を利用しながら介護した方の経験談も聞く事ができとても参考になった」「他の人にも訪問看護を教えてあげたい」「訪問看護を利用する事で安心して過ごせるといった」等の感想があった。次年度も事業継続予定。

1 4 金井地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月17日	報告 ・委員の交代について ・金井地域包括支援センター事業計画について ・昨年度の概況報告 情報交換 ・高齢者支援における多機関連携について ＜新しい生活様式における連携の在り方など＞
11月18日	報告 ・ネットワーク連絡会委員の辞任について ・金井地域包括支援センター活動報告について ・第1回ネットワーク連絡会・ネットワーク交流会のまとめについて 意見紹介及び意見交換 ・コロナ禍における介護予防の推進について
3月17日	報告 ・ネットワーク連絡会まとめについて ・金井地域包括支援センター活動報告について（プロモーション作成） 情報及び交換

◇ 地区ネットワーク交流会

開催日	地区	主な議題
8月26日	金井	テーマ「施設と地域のつながり」について 話題提供：「山形市社会福祉施設等連絡会の取り組み例について」 意見交換：「感想、私たちができること等」

◇ 地域ケア会議（個別ケース） 4回

◇ いきいきサロンへの参加 6回

◇ 地区行事・会議への参加

毎月…金井地区社会福祉協議会三役会、金井地区社会福祉協議会理事会、金井地区民生委員児童委員協議会定例会
金井地区福祉協力員総会・研修会、金井地区社会福祉協議会評議員会、新江俣町内会三者懇談会（年2回）、江俣町内会三者懇談会、陣場町内会三者懇談会（年3回）、吉野宿町内会三者懇談会（年2回）、鮎洗町内会三者懇談会、内表町内会三者懇談会、金井地区地域福祉推進会議、金井地区社会福祉協議会新春交歓会、金井地区社会福祉協議会福祉部長合同研修会

◇ センターだよりの発行 3回

（65歳以上高齢者宅全戸・医療機関・歯科医院・薬局・交番・金融機関・介護保険事業所・ガソリンスタンド・コンビニエンスストア・地域内の商店・金井コミュニティセンターに配布）

- ◇ 認知症サポーター養成講座(福祉協力員向け) ◇ 認知症サポーターステップアップ講座(通信講座として開催)

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 介護支援専門員への個別支援 14 件 ◇ 介護支援専門員との連絡会 1 件
- ◇ 医療機関連絡会(霞城北部・霞城西部包括と合同)
- ◇ 金融機関連絡会(霞城北部・霞城西部包括と合同)
- ◇ サービス事業所連絡会(霞城北部・霞城西部包括と合同)

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座 6 回 ◇ 介護予防講座「元気な足の作り方」
- ◇ 介護予防講座「全身の健康とお口のかかわりについて」 ◇ ボランティア養成講座(通信講座として開催)
- ◇ ソーレホーム江俣での住民主体の通いの場の立ち上げ支援
- ◇ 金井あおぞら体操(毎週火曜日 9:00～)

紹介したい取り組み

事業名	金井あおぞら体操
事業の目的	元気あっぷ卒業生の運動を継続するところがないことやコロナ禍の影響により各個人の活動自粛となってしまったことから、地域住民の健康づくりの場、仲間づくりの場を目的とし立ち上げ支援をおこなった。
事業概要	山形市内の感染状況が落ち着いた R2 年 7 月より実施。町内会を限定せず幅広く参加者を募ることができる位置関係であることから金井コミュニティセンターピロティを会場とし参加者を募った。毎週火曜日 9 時から約 15 分間、ラジオ体操・3 分間足踏み体操・ストレッチ体操をおこなった。
成果または感想	当初は少人数の参加ではあったが包括支援センターだよりや口コミなどで広がり約 30 名の参加となった。貸館のコロナ感染予防の都合上、活動場所の人数制限が必要な場面があり、グループを 2 つに分けコミュニティセンター近くの瀬波公園を使用するなど分散型での活動をおこなった。また冬期間は室内での活動となることから 2 部制とし参加者を募るなどの工夫をし開催できた。参加者からは「2 階までの階段が以前より楽に登れるようになった。」「冬期間は足が痛み通院することが毎年だったが今年は通院せず過ごせた」などの声も聞かれた。参加者の家族からも「認知症が進んでいていたため家から出る機会がなくなっていたが、体操をきっかけに出かけるようになってありがたい」などの声も聞かれた。回を重ねるごとにお互い顔見知りにもなり、認知症の方を家まで送り届けてくださる方や非接触体温計の検温の手伝い、終了後の後片付けなども手伝ってくださる方が増えた。今後も継続した活動の希望もあり住民主体の場と発展できるよう支援をおこなっていく。

山形市基幹型地域包括支援センター

1 地域包括後方支援活動

- ◇ 包括主催会議への参加 67回 (打ち合わせ等 101回)
ネットワーク連絡会、他各種連絡会、交流会、研修会、その他等
- ◇ 包括機能別部会の開催 26回 (打ち合わせ等 205回)
総合相談部会、包括的・継続的ケアマネジメント部会
権利擁護部会、介護予防ケアマネジメント部会
- ◇ ブロック情報交換会 22回 (打ち合わせ等 42回)
南西ブロック情報交換会、中央ブロック情報交換会、北東ブロック情報交換会
- ◇ 市主催会議(包括関連への参加) 23回 (打ち合わせ等 16回)
センター運営者会議、センター長会議、センター情報交換会 等
- ◇ ヒアリング・定期訪問 242回
ミーティング、センター内会議、業務会議 等
- ◇ 個別事例対応(同行訪問) 18回 (打ち合わせ等 47回)

2 地域課題把握・解決業務

- ◇ 地域ケア調整会議への参加 2回 (打ち合わせ等 36回)
- ◇ 課題整理会議 38回 (打ち合わせ 115回)
- ◇ ワーキングチーム 5回 (打ち合わせ 14回)
- ◇ 自立支援型地域ケア会議の支援 25回 (打ち合わせ 99回)
- ◇ 個別ケア会議への参加 17回 (打ち合わせ 31回)

3 地域包括ケアシステム構築に関わる機関の主催する会議への参加

- ◇ 在宅医療介護連携推進事業 12回 (打ち合わせ 39回)
- ◇ 生活支援体制整備事業 137回 (打ち合わせ 176回)
- ◇ 認知症総合事業支援 26回 (打ち合わせ 82回)
- ◇ その他機関 59回 (打ち合わせ 99回)

4 事業所支援業務

- ◇ 総合事業事業所(通所、訪問) 12回 (打ち合わせ 31回)
- ◇ その他事業所 49回 (打ち合わせ 121回)

5 その他

- ◇ 地域住民等への広報啓発活動 22回 (打ち合わせ 17回)
地区推進会議・地区活動参加・体力測定・サロン体操指導・他機関との調整 等
- ◇ 職員の資質向上のための会議・研修会参加 67回

紹介したい取り組み

事業名	課題整理（包括が捉えた課題の集約・地域課題等）と多機関連携の取組
事業の目的	当センターでは、地域包括ケアの構築・深化に向けて、地域包括支援センターを中心に地域課題の抽出と整理を行うとともに、課題解決策の検討等に関する支援の他、各機関の連携促進や情報等の共有を図るために取り組みを継続している。経過の中で、積み重なる課題や時代に伴う新しい課題、複雑多問題の課題など、包括的支援事業（以下、事業）に求められる活動は多岐にわたる。さらに感染症拡大に伴い、事業の推進が思うように進められなくなるなど、幅広い対応が求められた。これまで以上に事業同士が協力し、より効果的で効率的な事業展開や連携を図ることを継続するため、運営の仕方や対応方法の創意工夫を検討し、その上で各事業の動きや考え方などを共有・情報交換および、課題の協議を進める場の充実・拡充を進めてきた。
事業概要	●包括後方支援業務および ICT 活用による業務継続支援（ZOOM会議など） ・「包括機能別部会」の役割見直し。専門分化した課題協議の取り組み実施。 ・「包括主催自立支援型地域ケア会議」や個別ケア会議の積極的後方支援。 ・YouTube 配信「包括的支援事業所合同情報交換（SHOP・TV）」。 ●地域課題把握業務 ・自立支援型ケア会議の打ち合わせ等対応増加による継続した基盤整備。 ●地域包括ケアシステム連携業務 ・生活支援体制整備事業の充実に向けた継続した基盤整備。 ・介護保険事業所連絡会や支えあい団体等との会議の開催支援の強化と、多分野にまたがる課題を、別事業同士で協議するための合同会議の実施。 ●広報活動の支援・推進 ・集会が出来ないことからの広報・連携の代替え策として「MCS」活用の拡大、ZOOM会議、YouTube、動画制作などの推進活動。 ・「きかん新聞」発行（年間3回）配布機関を上げ配布（市内全事業所他、薬局への拡大）。

事業名	介護保険事業所連絡会
事業の目的	介護保険事業所連絡会は、地域包括ケアの構築・深化に向けて、一体的な平準化やケアの質の向上を目的にし、また各事業種別で捉えた地域課題の抽出と整理や、課題解決策の検討等も協議し得る場として会を運営する。
事業概要	●11 事業種別の連絡会 居宅介護支援事業所連絡会、訪問介護事業所連絡会、訪問看護事業所連絡会 通所介護事業所連絡協議会、通所リハビリテーション連絡会、短期入所事業所連絡会、福祉用具貸与・販売事業所連絡会、小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 通所C事業連絡会、訪問C事業連絡会 ●活動 代表者会（代表：居宅代表 副代表：通所代表 副代表：小多機代表）2回 全体連絡会代表者合同情報交換会 2回 地域ケア調整会議への参加 2回（居宅幹事3人） ●各連絡会の状況まとめ ・各事業種別のコロナ禍による影響や課題の共有を行った。 ・訪問介護事業所連絡会は、備品の不足など事業全体の課題を把握し市との協議を行った。 ・事業の推進や理解の促進のため、連絡会独自でアンケート実施をした。 ・事業種別ごとだけではなく、協働会議の企画をし提案した。

事業名	支え合い活動団体（全市域対象）担い手マッチングに向けた取り組み
事業の目的	第1層生活支援コーディネーターは、山形市内の支え合い活動に取り組む担い手を養成し、マッチングすることがその役割の一つにある。 例年山形市の担い手養成講座及び山形市社協の地域支えあい隊養成講座の開催により、これに取り組んできたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大を受け、研修会等の企画が困難であったため、集合形式でなく、個別にアプローチすることを目的に取り組んだ。
事業概要	活動者募集チラシの作成 ●支え合い活動団体回り ・コロナ禍での担い手の状況確認。併せてコロナ禍でのマスクや消毒等の不足状況等の把握を行い、県・市への情報共有を行った。 ●チラシの作成 ・活動団体から掲載内容（募集内容、お誘いの一言）の提供を受け、チラシを作成。 ●チラシの設置 ・公民館、コミュニティセンターへの設置について、長寿支援課及び第2層生活支援コーディネーターの協力により配布、設置することができた。 ・フィットネスジム等への周知を行う為、主だったフィットネスジムへ趣旨説明の訪問を行い、理解を得ることができ、設置することができた。 ◎成果と今後…更新版を持参する際、フィットネスジム等でも手に取ってくださっている事が確認できている。また、チラシを見て活動の問い合わせがあった等の報告もいただいた。今後は担い手養成講座等の開催と合わせて継続していくことで、マッチングのツールとしていく。   

事業名	交通課題に対する取り組み
事業の目的	本課題については、平成27年に地域包括支援センターから免許返納が進まないという課題を把握した事から取り組んでいる。 免許返納が進まない背景の一部には、①免許を返した後の交通手段がない事、②バス路線等があったとしても、認知症の状況等により免許を返納した場合、その時点でバスの乗り方を新たに覚えることが困難であること等が考えられた。 これらを解消していく為には、①では新たな交通資源を獲得すること、②には既存資源の活用を促進することが考えられ、①②に対応することを目的に以下の事業に取り組んだ。
事業概要	①新たな交通資源の獲得 ・居場所とタクシーの連携を考え、山形地区ハイヤー協議会に相談。定額及び相乗りによる移動支援の可能性について模索している。 ②地域支援 ・地域が取り組む交通課題に対する検討会等に参加。バスの乗り方講座の開催や地域における新たな交通手段の在り方検討などの取り組みに参加している。 成果：バスの乗り方講座については、令和3年度に全市版を開催予定。新たな交通手段の在り方については、企画調整課のモデル事業となり、検討が継続されている。